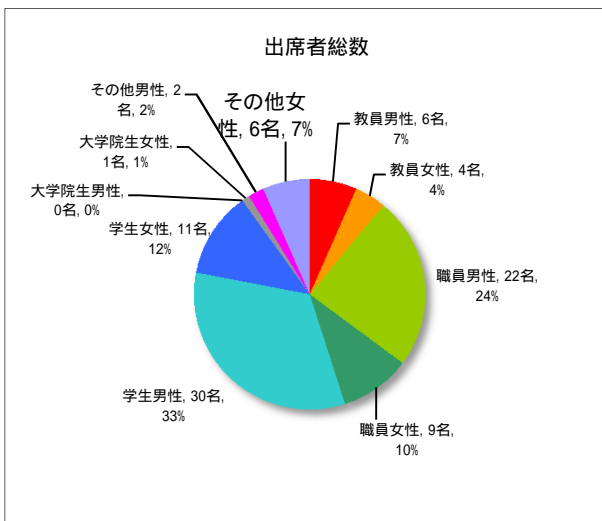


## 埼玉大学男女共同参画室講演会アンケート集計結果

### 1. 講演会出席者

区分	総数	男性	女性
教員	10名	6名	4名
職員	31名	22名	9名
学生	41名	30名	11名
大学院生	1名	0名	1名
その他	8名	2名	6名
計	91名	60名	31名

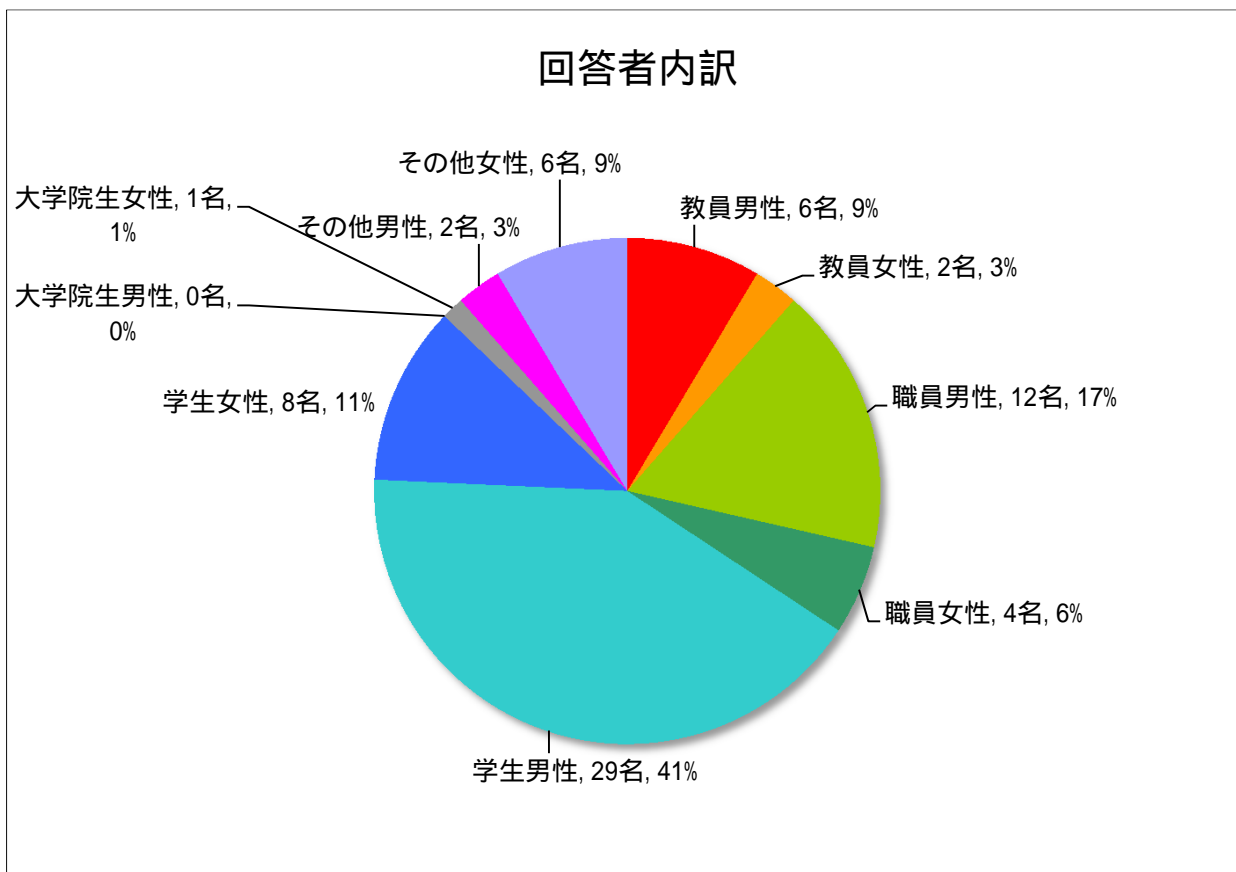


### 2. 回答率

区分	出席者	アンケート回答者	回答率( / )
教員	10名	8名	(80.00%)
職員	31名	16名	(51.61%)
学生	41名	37名	(90.24%)
大学院生	1名	1名	(100.00%)
その他	8名	8名	(100.00%)
計	91名	70名	(76.92%)

### 3. 回答者内訳

区分	男性	女性	計
教員	6名	2名	8名
職員	12名	4名	16名
学生	29名	8名	37名
大学院生	0名	1名	1名
その他	2名	6名	8名
計	49名	21名	70名



4. 回答者所属

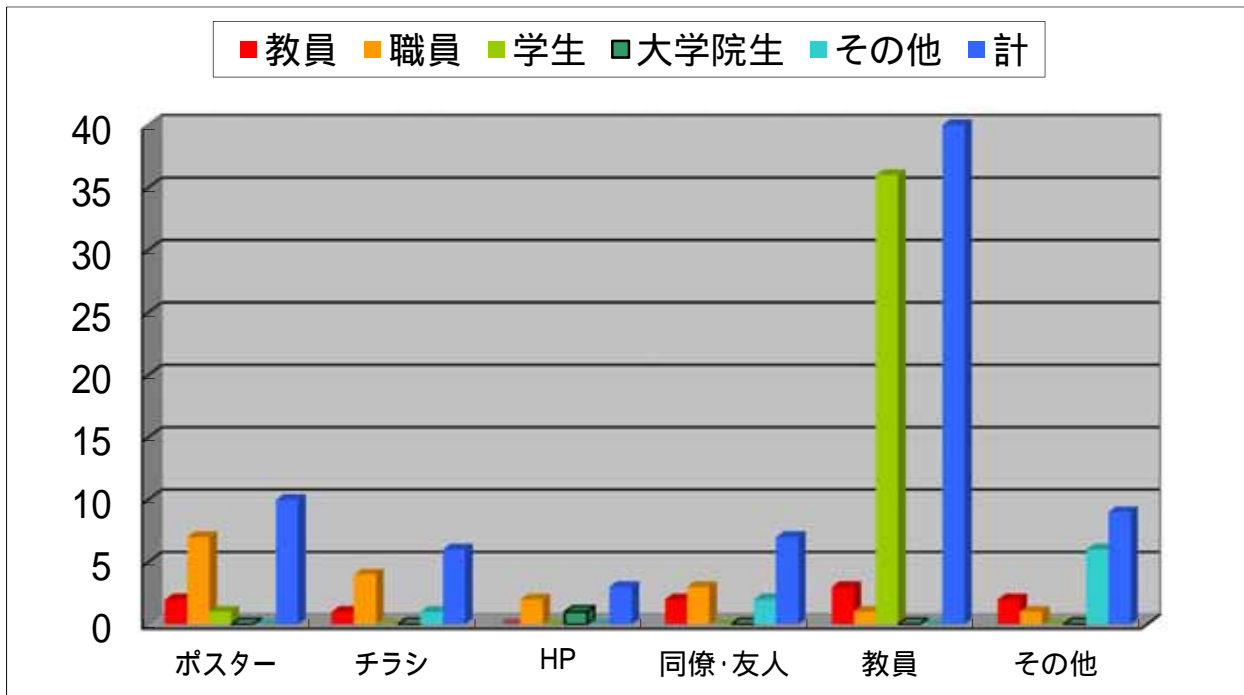
区分	所属	男性	女性	計
教員	教育学部	1名	1名	2名
	経済学部	1名	0名	1名
	理工学研究科	3名	0名	3名
	不明	1名	1名	2名
	小計	6名	2名	8名
職員	総務部	2名	2名	4名
	研究協力部	1名	0名	1名
	財務部	3名	0名	3名
	学務部	2名	1名	3名
	不明	4名	1名	5名
	小計	12名	4名	16名
学生	経済学部	28名	7名	35名
	理学部	1名	0名	1名
	不明	0名	1名	1名
	小計	29名	8名	37名
大学院生	不明	0名	1名	1名
	小計	0名	1名	1名
その他	国立女性教育会館	1名	2名	3名
	不明	1名	4名	5名
	小計	2名	6名	8名
合計		49名	21名	70名

5. 回答内訳

本日の講演会については、何でお知りになりましたか。

1. ポスター      2. チラシ      3. HP      4. 同僚・友人からの情報  
5. 教員からの宣伝      6. その他

区分	ポスター	チラシ	HP	同僚・友人	教員	その他	その他内訳
教員	2名	1名	0名	2名	3名	2名	
職員	7名	4名	2名	3名	1名	1名	サイボウズ
学生	1名	0名	0名	0名	36名	0名	
大学院生	0名	0名	1名	0名	0名	0名	
その他	0名	1名	0名	2名	0名	6名	メール
計	10名	6名	3名	7名	40名	9名	



本日の講演会についての感想をお願いします。

#### 教員男性

非常に貴重なお話ありがとうございます。立案、実行できる部署ができたことは大変嬉しく思います。災害時および平常時において男女二元制にくりきれない性同一性障害や同性愛、両性愛の人の特別な支援や人権保障にも広がってくれることを期待しています。

非常時こそ問題の重要な側面があらわれるという点は、常日頃より実感していることであるが、そのことは同時に変革のチャンスでもあることを本日の講演会から学ぶことができました。

様々な視点が重要であるということが印象的であった。最後に出てきた部署4名の内訳が男女比1:1であるのに深い意味を感じた。

お話を伺って初めて気づいたことがたくさんありました。身近なところから見直しをしていきたいと思えます。

政治家としての責務をしっかり果たされていることに敬意を表します。女性ならではの視点が政治に反映されることの重要性を感じました。生命を守る社会とはどのような社会なのか考えさせられました。すばらしい講演会だったと思います。

#### 教員女性

男女共同参画の状況の酷さは分かっていたことですが、災害・防災(復興も含めた)の分野の中で女性の要望がまったく吸い上げられない状況があることについて改めて認識しました。

後半のお話が現地訪問やデータに基づいていて興味深かったです。レジュメが連動していないのは、少し残念でした。画面で読み取りにくいデータがあったので。

#### 職員男性

女性のみならず障害者や高齢者の視点が必要だというのが新しいと思いました。

男女共同参画を広範な観点により説明されていたのが、印象的であった。

災害時の共同参画が平時の共同参画に繋がるという考えは、新鮮な感じだった。

自分の問題として災害を考えるということは一般的な意味で当然と思うが、現実にはまだまだと言わざるを得ないと思った。性差にとらわれずより良いものを目指す努力を進めたい。

女性の視点の重要性を感じた。全く気がつかなかった点を指摘されたような気がする。

参考になり良かった。

男女共同参画と災害復興を結びつけて考えたことがなかったので、とても参考になった。

#### 職員女性

災害対策における男女共同参画の問題について、分かりやすく説明して頂き、大変参考になりました。女性の登用、女性の視点というのが、まだまだ欠如していると思いました。

女性であることの大切さ、女性であるがゆえに施策に参加すべきであることを学びました。一步引くばかりが"女性"ではないのかもしれない。

#### 学生男性

被災地の現状、課題を改めて認識した。今まで、身近な出来事としてとらえられていなかったことを強く感じた。その中で、男女共同参画の重要性を感じられた。

近年、男女共同参画社会が呼びかけられ女性の地位もある程度向上したと自分なりに思っていたが、実際にはまだまだ女性の社会進出は不十分であり、女性の声が軽視されがちであると分かり一刻も早く対策をうつべきだと思った。男性だけの視点では見逃してしまうことも女性の目先で見れば新たに気づくこともあるので、より一層の女性の社会進出を望む。

男女の実質的な平等が実現されることが望ましいと思った。

実際に現場を知っている人間を策定側に組み込む必要性は、現場で知れないことがあることからとても高いと感じました。実態を知って初めて出来ることもあると思えます。

男女共同参画という考え方の中で、高齢者や障害者という視点をまったくと言っていいほど意識がなかったので、考えさせられる部分があった。緊急時の問題は平時の問題でもあるという言葉は非常に深みがあった。災害時女性は主体ではなく対象者になってしまうという問題は一見すると簡単であるように思えるが、実はとても根深いことだと改めて実感した。

パニック障害を持つ子供がいる家族についてはテレビで報道されていたが、避難所での状況は決して良い状況と言えるようなものでは無かった。そのようなことを見聞きすると提言などに盛り込むことで終わり、実行されていない現実が実感され、見捨てられているのではないかと再認識した。「機会の平等」を作り出すことによって「結果の不平等」を生み出してしまうことが考えられるが、その点での対策はあるのかどうかという疑問を持った。

避難所において重要なことといえば、情報伝達やコミュニケーションの確保に目がいきがちだが、病人や障害者が家族にいる家庭への支援や託児所をどうするかなどの対策も必要なのだと気づかされた。復興構想会議において女性の視点、男女共同参画の観点が必要かつ不可欠であるように感じた。

被災地での女性の立場というものを考えたことがなかったのだが、今回の講演を聞いて深く考えるべきだと思った。女性、高齢者、障害者ならではの悩みや問題にも気をつける体制や対処できる制度作りや社会のあり方が求められていると深く感じた。

現代社会における女性の活躍は、以前とは比べものにならないものである。今後よりいっそうの活躍の場を提供できるような社会を構築していく必要性を再認識いたしました。

女性が積極的に政策づくりの主体に参加できる仕組みが重要であるということが分かった。震災の時に隣近所との絆が重要であったとあるが、首都圏で今回のような震災が起こった際に近所との関わりの薄い家庭などの安全に懸念を感じる。

男女が平等に意見を言える状況は重要であると考えます。しかしながら実際に女性はそのような会議へ出るために何をしているのかと疑問に思いました。言いたい、言いたいではなく、選挙に出たり、それ相応の責任のある立場にあるべきだと思います。それが男女平等ではないですか？

これまで制度に女性の視点が入っていなかったという観点は、今日の講演の中で気づかされたのは事実です。3月の災害を機に現場の女性の声を大事にしていくというのは、本来の共同参画社会だと思いました。ただ、各々の人の声を聞き入れ、各々が住みやすい安心した社会を求めてしまえば、また細分化された狭いコミュニティーになってしまうのではないかと疑問に思いました。

制度を整え、部署・組織を編成することが重要なことが分かりました。

限りある時間の中で講演を行っているので仕方ないと思いますが、政府の対応の悪い点ばかりにスポットをあてすぎている印象を受けました。自然災害のような突発的なものに対してあらゆる点から優れた対応をしるというのはかなり無理があるように思えます。個人的には東日本大震災の日本の対応は海外評価同様に迅速で適格なものが多かったと考えています。実際に避難所に数日いた友人も最低限の対応は整っていたと話していました。私の感想が講演に反感を抱いている印象を受けるかもしれませんが、少しでも参考にして頂ければ幸いです。

県知事になった時、老若男女全ての声を聞くと演説で言われたそうですが、女性の声しか反映されていないと感じた。避難所における女性への暴力防止の対策とは具体的にどのようなものがあるか。被災者を会議に参加させることは非常に重要であるが、なぜその中に男性は含まれていないのか。被災者であるならば性別は関係ないのではないか。人の命を救ったものは、隣人等の絆であるならば、復興計画を考える時にコミュニティ中心で考えるのは妥当ではないか。策定時に男女のことが考えられているならば、策定側に女性を無理にねじこむ意味はないと思う。

災害などの緊急時に、少数意見がおろそかになり多数意見が優先されるのは仕方がないことだと思う。しかし、だからといって少数を見過ごしていいわけではなく、国やその地域のリーダーがそのことをきちんと分かっていると改善されない問題であると思う。男女共同参画の考えが人々の当たり前前の考えとして広まれば多くの人々が救われると思う。今回の講演会のような男女共同参画の考えを広める活動はとてもすごいと思った。自分が今回の話をどれだけ理解できたかは分からないが自分の分かる範囲でこの視点を大切に、当たり前にしていきたいと思った。

男女共同参画と災害対策への融合がここまで重要なものだ気づかなかったので気づけて良かったです。

新聞のコラムで被災地での更衣スペースの有無についての事が載っていたのですが、まさに今日の講演会で堂本さんが伝えたかったことなのではないかと感じました。男女の違いを理解した上で、男女共同参画を推し進め個人が考えながら生活しなければならないのではないかと再確認しました。素人考えですが、女性の就業率を上げると雇用の絶対数を上げないと男性の就業率が下がるのではないかと感じました。

よく企業の管理職や政府の要職への女性の登用を促進しようという話を聞く。私は今日、講演された堂本さんのような能力もあり、精力的に活動されている方がもっと多く現れ活躍すればよいと思う。また、災害時などの緊急事態においては、視点の広さというものが非常に重要だということが分かった。

3月11日の東日本大震災において露呈された様々な問題の中で、「男女共同参画」や「ジェンダー」の視点が欠けているということは、重大な問題であったのだと感じた。先の国連防災会議の際に「ジェンダーの視点」の重要性が明記されていたにもかかわらず、この度の震災後の復興には改善されていなかったという事実には衝撃を受けた。堂本さんらが尽力して活動した今回の結果を私たちは十分に認識し、出来る限りのことをしなければならぬと感じた。

震災復興政策に、男女共同参画、障害のある人々の視点が含まれていないという事実を改めて苦しい状況下に置かれている時こそ配慮が大切であると感じました。

NWECの存在は確かに必要だと思うが、NPO法人化に反対する意味が分からない。事業仕分けをすんなり受け入れるところなんてあるわけがないのだから、行政を圧迫せず活動出来るところはしていけないと日本は一生立ち直れない。女性参画については行政にも女性をもっと多く取り入れるべきだし、管理職等にも女性をもっとつけるべきだと思った。しかし、社会制度上の女性参画は方向性がずれているように思う。女性専用車両やセクハラ等男女平等でも何でもなく性差別に当たり、男女平等というより、女性優遇を実現しようとしているように思える。

今日の社会で、男女の性差別は減っていると思っていたが、まだ多くの差別が残っている。そして、それは3.11のような特別な状況でしか露呈されない。何気ない普通な日では差別が分からないので、まずはそのような隠れた差別を明らかに減らしていくしかないのでは？

日本は地震災害がよくおきるから、対策はしっかりしているものと思っていたが、今回の地震の対策でもたくさん穴があったことに驚いた。政策は多数の人に多大な影響を与えるものだから、少数の人に対してでも不利なことがあってはならないし、だからこそ政策を決定するメンバーはあらゆる立場の人たちの暮らしを理解している人で構成されなければならないと思った。

東日本大震災の復興7原則に男女共同参画、障害者に対する記述がないのにはショックを受けた。しかし、内容を盛り込むとしても具体的なものがなにも思い浮かばなかった。今まで多くの災害が起きて問題視されてきたであろう、なのに改善出来なかったのはとても悲しく思う。今回の震災で変わればと思う。

あらためて3月11日のことを考えさせられた。最後に仰られた他人事にしないということはとても大切だと思った。自分たち一人一人がこれからのことについて、じっくりと考える必要があると思った。男女共同参画については、少々関連が薄いかと思った。

私自身静岡県出身ですので、地震について感心がありましたがお話を聞いて災害面において男女共同参画がないということをとっても感じました。

#### 学生女性

現状への苦情ばかり述べている感じがして、今後この先の具体的な改善方法についてあまり触れることなく、ただ淡々とした講演会だったと思ってしまった。

福島出身なので、今回の災害についての話はとても興味深かったです。実際に、避難所で生活をしている友人も多くいました。女性や子供、障害者に対するケアの重要性を知り、また自治体における体制の極端なところに驚きました。

中学、高校時から男女共同参画社会については授業の中で聞いていてだんだん平等になってきているのかと思っていたが、今回の講演を聴いて全く達成されていないという事実を知りました。震災が多いこの国だからこそ男女の権利が平等でなくてはならないと思いました。そのためにも弱者と言われている人々の権利が保障されるように変わって欲しいと思います。

県や市町村で災害時における女性や障害者への配慮がいかに欠けているがよく分かった。最後に堂本さんが仰っていた放射線被害について、私は福島出身で関東の人たちの放射線問題への意識が徐々に薄れていることに不安を感じていたため、同じことを思っていたことに少し驚いた。(東北の人くらいだと思っていたので)

今日の講演会を聞いて、復興にも男女共同参画が関わっていることを初めて感じました。つい何週間か前に、被災地ボランティアで宮城県に行っていたのですが、復興にはまだまだ時間がかかるということを身をもって感じてきました。その中でこの男女共同参画問題も考えていくのは難しいと思いました。

復興に関わる会議に女性がほとんど参加されていないことを初めて知りました。しかし、専門家、議員に女性がそもそも少ないことを考えると女性が少なくなってしまうのは仕方ないのかなとも思いました。また、災害時、助け合えるかつ住みやすくなる環境・街づくりをしていくためには、やはり平時から障害者、高齢者などが住みやすい社会を作っていく必要がある。そしてそれは緊急性があると思いました。

災害対策における女性や子供、障害者への配慮について「もっと女性のことを考えて対策をすれば良いのに」という思いはあったが、「女性や若者が主体となって政策の方向性を考えるべき」という考えは、実はあまり持ってなかったということに気づかされた。避難所の備品等に対する女性や子供に重きをおいた視点が非常に欠けているという点にも驚かされたが、やはりこういうことは男性が女性を対象として考えるだけでは足りず、女性が主体となって考える必要があると思われた。

男女共同参画社会について考える良いきっかけになりました。確かに女性が社会進出していくことは大切だと思います。

しかし、今日の社会はこの男女共同という言葉が本来の意味を失っていると思います。女子会、レディースデイ等どちらかという女性が優遇されていると感じることが多いです。本当の意味で男女共同を目指すのなら「女性が」「女性が」という主張、考え方は改めるべきだと思います。

### その他男性

これまでの男女共同参画までの女性の参画について基本法になかった「女性の健康と権利」「女性の経済的エンパワーメント」など再び認識を強くした。第3次男女共同参画基本計画にある男性に対する男女共同参画の研修が必要である、すべての人に広く伝えていかなければならないと感じている。変わるのは男性の意識である。基盤を変えていく整えていくことが必要。災害を含めて、女性の参画主体が改めて重要であると感じた。日本のバランスの悪さを考えていきたい。人と人との関わり、他者自分の尊重が男女共同参画であると思った。制度の改革は大切。

あらためて災害時における男女共同参画について考える機会となった。いつ起こるか分からないことについて、よく分かった。

### その他女性

平常時の社会的差別、格差が集約的に顕在化したことを明らかにすることで、やもすると絆という名でまるめて逆行しないよう行政、制度も含めて意識することが重要であることが分かりました。ありがとうございます。

ジャーナリスト、政治家、知事、国際舞台での政府代表等、様々なご経験を活かした幅広い知見から日本の将来を考える上での男女共同参画の必要性をお話しされて大変勉強になりました。

日ごとに震災の記憶が薄れつつある中、担当者のみが復興の対策を話し合うのではなく地域の人々がまた当事者自身(女性、子供、若者、高齢者等)が参加できる仕組みを作っていきたいと思いました。ありがとうございました。

災害・復興に男女共同参画の視点がどうして重要かということがよく分かったように思いました。

素晴らしい講演でした。災害・復興を通して日本の中に男女共同参画の制度づくりをし、一人ひとりの意識の変化を作り上げていかなければならないと考えました。

平時に直面している女性の問題 災害時に顕在化という視点、日本の社会のあり方、男女共同参画社会というものすべて分かり易く話して頂き有意義なご講演でした。ありがとうございます。

男女共同参画室への要望、今後取り組むべきだと思う内容について、次の中からお選びください。  
(複数回答)

1. 男女の機会均等の実現
2. 男女共同参画の視点に立った、制度・慣行の見直し、意識改革の推進
3. 就労・就学と家庭生活との両立支援
4. 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大
5. 男女共同参画を推進する教育・研究の充実
6. 男女共同参画の視点からの学内の実態調査・分析及び情報の提供
7. 苦情申し立て、救済システムの整備
8. その他、要望がありましたらご自由にお書き下さい。

区分	機会均等	意識改革等	両立支援	女性の参画拡大	教育・研究推進	実態調査	救済システム整備	その他
教員男性	0名 (0.00%)	3名 (50.00%)	4名 (66.67%)	1名 (16.67%)	1名 (16.67%)	1名 (16.67%)	1名 (16.67%)	1名 (16.67%)
教員女性	1名 (50.00%)	1名 (50.00%)	1名 (50.00%)	0名 (0.00%)	1名 (50.00%)	1名 (50.00%)	1名 (50.00%)	0名 (0.00%)
職員男性	1名 (8.33%)	6名 (50.00%)	3名 (25.00%)	5名 (41.67%)	1名 (8.33%)	1名 (8.33%)	2名 (16.67%)	0名 (0.00%)
職員女性	0名 (0.00%)	3名 (75.00%)	1名 (25.00%)	1名 (25.00%)	0名 (0.00%)	1名 (25.00%)	0名 (0.00%)	0名 (0.00%)
学生男性	8名 (27.59%)	17名 (58.62%)	8名 (27.59%)	8名 (27.59%)	7名 (24.14%)	3名 (10.34%)	7名 (24.14%)	2名 (6.90%)
学生女性	5名 (62.50%)	5名 (62.50%)	2名 (25.00%)	3名 (37.50%)	1名 (12.50%)	1名 (12.50%)	0名 (0.00%)	0名 (0.00%)
大学院生女性	0名 (0.00%)	1名 (100.00%)	0名 (0.00%)	1名 (100.00%)	0名 (0.00%)	0名 (0.00%)	0名 (0.00%)	0名 (0.00%)
その他男性	0名 (0.00%)	2名 (100.00%)	0名 (0.00%)	1名 (50.00%)	1名 (50.00%)	1名 (50.00%)	0名 (0.00%)	0名 (0.00%)
その他女性	1名 (16.67%)	4名 (66.67%)	4名 (66.67%)	3名 (50.00%)	3名 (50.00%)	1名 (16.67%)	1名 (16.67%)	0名 (0.00%)
男性小計	9名 (18.37%)	28名 (57.14%)	15名 (30.61%)	15名 (30.61%)	10名 (20.41%)	6名 (12.24%)	10名 (20.41%)	3名 (6.12%)
女性小計	7名 (33.33%)	14名 (66.67%)	8名 (38.10%)	8名 (38.10%)	5名 (23.81%)	4名 (19.05%)	2名 (9.52%)	0名 (0.00%)
計	16名 (22.86%)	42名 (60.00%)	23名 (32.86%)	23名 (32.86%)	15名 (21.43%)	10名 (14.29%)	12名 (17.14%)	3名 (4.29%)

その他

#### 職員男性

学生、教職員における性的少数者に対する支援と権利保障、啓発活動。  
問題をうわべだけでなく、自分の問題として実感として体感、意識できるような方策があればよいと思います。  
様々な視点を集める方法、視点を意見にする方法、特に少数意見をひろいあげる方法を考えるべき。公正な情報公開と実行力のある部署の設立。

#### 職員女性

例えば博士課程で研究している女子院生にも積極的な参加を教員を通じて呼びかけたり、非常勤職員(希望者)も参加できるよう、職員が配慮することも必要だと思う。

#### 学生男性

男女共同参画ということで、女性の地位向上については改善に向かって行動されていると思いますが、ある面では男性が虐げられることもあるかと思いますが、そういったことを改善する動きがあれば講演に導入してもらいたいです。  
女性偏重し過ぎている。  
就労に関してはやはり、女性の参画をもっと促すべきだと思う。しかし、制度(社会的な)慣行の見直しは男女平等とはずれたベクトルで推し進められているように感じるので、そこは改善すべきだと思う。  
PPが動かなくなったときなど、もっとすぐに対応するべき。話を聞いていれば動かなくなっているなど、すぐに分かるはず。

